

学部長挨拶

早稲田大学教育学部ペアレンツデーのサイトにアクセスしていただき、ありがとうございます。教育学部長の箸本健二です。

本来ならこのペアレンツデーは、皆様を早稲田のキャンパスにお招きして直接お話し、またキャンパスツアーなどで早稲田の秋をお楽しみいただける機会なのですが、新型コロナウイルス感染症が再び拡大し、収束の見通しがいまだ不透明なため、残念ながら今年度も、昨年度に続いてオンラインでの開催となりました。

ここに参加いただいた皆様が保護者をなさっている学生諸君の場合、昨年度の春の入学式はかろうじて実施され、授業も対面で開講されるようになりました。それでも、少なからぬ授業がオンライン開講となり、サークル活動などの学生生活も多くの制約を受けました。保護者の皆様にも、入学式でキャンパスにお出でいただく機会を持っていただくことが叶わず、大変残念に感じております。また、感染防止に細心の注意を払いつつ、徐々に大学を平常に戻そうと努めた昨年度は、私たち教員や、それを日々支えてくれている事務所のスタッフにとっても試行錯誤の連続で、ご迷惑やご心配をお掛けしたこともあったかと思えます。それらの点については、ここで改めてお詫びを申し上げます。

私も昨年度来、講義もゼミもほぼすべて対面で開講しておりますが、担当科目である地理学演習のフィールドワークだけは、秋学期に日帰りで実施するに留まりました。地理学は、現地での観察や調査を通じて、地域を総合的に評価する学問ですので、そこではフィールドワークが重要な役割を担います。昨年の秋学期に再開したフィールドワークは、実質半日の街歩きに留めざるを得ませんでした。地形図や行政資料を片手に街を歩き、教員や地元の方々の説明に耳を傾け、そして参加者同士で雑談を交わしながら都市空間に対する知識と洞察力を深めていく学生諸君の姿を見て、ようやくあるべき日常に戻れたという実感を持ちました。

大学という場は、教員が提供するコンテンツだけで成り立つものではありません。休み時間やサークル活動、そしてフィールドワークでの雑談まで、キャンパス内外で過ごす時間の中での、様々な人や出来事との出会いやすれ違いも含めて、“大学”という経験の場が日々生きられ、作られていくことをあらためて実感しています。

今年のペアレンツデーでは、皆様にそうした大学という場を垣間見ていただくことは叶いませんでしたが、私たちは日々、そうした場所と時間を、オンラインという新しいツールも利用しながら、学生諸君と共に作るべく努めています。ここに参加された皆様が保護者をなさっている学生諸君は、そんな新しい大学を共に生き、作ってゆく最初の世代になります。保護者の皆様には、今後とも教育学部の教育にご理解ご助力をいただくと共に、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2022年9月21日

早稲田大学教育学部長 箸本 健二